

## 2023 年度 院内体制整備支援事業実施要綱

### 1. 目的

本事業は、適切に臓器提供に関する情報の提示（以下「選択肢提示」という。）が実施され、臓器移植に関するあっせん業務を公平、公正、適切かつ安定的に実施する体制を構築するため、臓器移植法ガイドライン第4の3に定める脳死下での臓器提供が可能な施設類型に該当する施設（以下「5 類型施設」という。）を対象に、当該施設の状況に応じて、院内の各部門間の連携及び都道府県コーディネーターをはじめとする院外の移植医療関係者との連携の下で、院内コーディネーターの設置、院内マニュアルの作成や実際の臓器提供を想定したシミュレーション、院内研修の実施、院外研修への参加などを実施することにより、脳死下及び心停止後臓器提供に関する国民の意思をより確実に活かすことができる院内の体制を整備することを目的とする。

### 2. 実施主体

公募要項に定める要件を満たし、公益社団法人日本臓器移植ネットワーク（以下「JOT」という。）に本事業の実施に係る申請書を提出し、承認された医療機関（以下「実施施設」という。）。

### 3. 実施ステップの定義

実施施設は自施設の臓器提供に関する院内の体制整備（以下「体制整備」という。）の状況に応じて次のステップから該当するステップを選択し、事業を実施する。ただし、5 類型施設に該当しない施設の場合は、体制整備の状況を問わず、ステップ A として事業を実施する（別表 1）。

- （1）ステップ A：過去 5 年間に脳死下臓器提供を行ったことがなく、臓器提供に備えた院内の体制整備を新規に行う施設を対象とする。臓器提供に備え、院内体制を新たに構築することを目標とする。
- （2）ステップ B：脳死下臓器提供の有無は問わず、脳死下臓器提供に備え、選択肢提示（終末期患者の家族へ臓器提供に関する情報を提供すること）や意思表示を可能とする院内体制がある程度構築されており、さらに、円滑に脳死下臓器提供を行う為の院内体制整備を実施する施設を対象とする。申出があったときに円滑に脳死下臓器提供を行う為の院内体制を完備することを目標とする。
- （3）ステップ C：過去に脳死下臓器提供を行ったことがあり、脳死下臓器提供に備えた院内体制が構築されている施設を対象とする。脳死下臓器提供の体

制を維持するとともに、より円滑な脳死下臓器提供を行う為の院内体制の維持向上と、常に選択肢提示ができる体制を構築することを目標とする。

#### 4. 事業の内容

実施施設は、臓器提供に関する院内体制を構築・継続するために、ステップ毎に定められた活動を実施する（別表2）。

##### （1）臓器提供に関する院内体制を構築/継続するための基礎活動

- ①臓器提供に関する委員会・会議の開催
- ②院内マニュアル（脳死下提供、心停止後提供、児童虐待対応等）の作成、見直し・改訂

##### （2）臓器提供に関する院内体制を構築/継続するための研修

- ①臓器移植医療に関する院内研修会の開催
- ②JOT が各種学会と共催するセミナーへの職員の派遣※  
※JOT の他の助成事業（臓器提供施設連携体制構築事業又は院内体制整備支援事業）に参加している実施施設が開催する、院内研修会やシミュレーション等への職員の派遣を含む

##### （3）臓器提供に関するシミュレーションの実施

院内マニュアルを用いて読み合わせ等の机上シミュレーションを実施したうえで、段階別・パターン別シミュレーションを実施することが望ましい。

##### （4）選択肢提示の実施状況に関する報告

器質的脳障害により深昏睡（GCS3）を認める者の治療経過および不可逆的全脳機能不全に至った場合の家族に対する選択肢提示の実施状況について、定期的に調査し JOT へ報告する。

なお、臓器提供施設連携体制構築事業の連携施設となっている場合には、拠点施設にも報告すること。

#### 5. 留意事項

○体制整備に際しては、「医療チーム」を設置することが望ましい。また、設置にあたっては、「臓器提供施設ハンドブック※1」を参照すること。

※1 監修：厚生労働科学研究補助金「脳死下、心停止下の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究、研究班」、発行所：株式会社へるす出版

○助成金の対象となる活動については、自施設の体制整備状況に応じて、一部の活動に偏らないように実施すること。

○コロナ禍の状況に鑑みて、院内研修会や職員派遣については、オンラインで実施する等の代替措置を講じること。

○マニュアルの作成については、JOT の HP に掲載する「臓器提供施設マニュアル※2」や「心臓が停止した死後の腎臓提供に関する提供施設マニュアル※3」を活用すること。

※2 [https://www.jotnw.or.jp/files/page/medical/manual/doc/flow\\_chart01.pdf](https://www.jotnw.or.jp/files/page/medical/manual/doc/flow_chart01.pdf)

※3 <https://www.jotnw.or.jp/files/page/medical/manual/doc/zinzo-teikyo-manual.pdf>

○4.（4）で報告される内容については、厚生労働科学研究等の研究事業で今後活用される可能性がある。

○シミュレーションの実施や院内の教育研修にあたっては、JOT の教育・研修システム（J-ELS 通称：ジェルス）※4 等も活用すること。

※4 [https://j-els.study.jp/rpv/medical\\_lp.aspx](https://j-els.study.jp/rpv/medical_lp.aspx)

○事業の応募にあたっては、厚生労働省の HP に掲載されている「心停止後臓器提供に関する QA（医療機関の方向け）※5」を参考にする事。

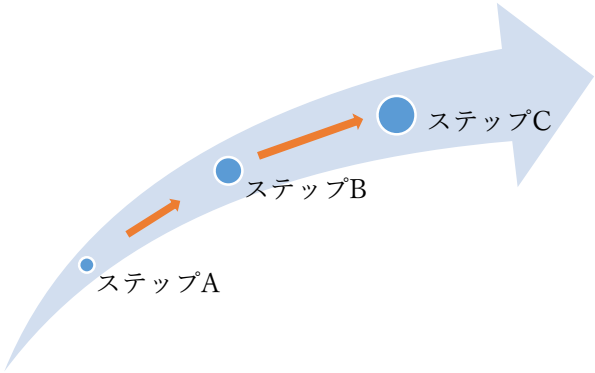
※5

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/zouki\\_ishoku/qa.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/zouki_ishoku/qa.html)

附 則 この要綱は、2023 年 3 月 31 日から施行する。

別表 1

【事業目標】



	ステップ A	ステップ B	ステップ C
対象施設	脳死下臓器提供の有無は問わず、臓器提供に備えた院内の体制整備を新規に行う施設	脳死下臓器提供の有無は問わない。脳死下臓器提供に備え、選択肢提示（終末期患者の家族へ臓器提供に関する情報を提供すること）や意思表示を可能とする院内体制がある程度構築されており、さらに、円滑に脳死下臓器提供を行う為の院内体制整備を実施する施設	脳死下臓器提供を行ったことがあり、脳死下臓器提供に備えた院内体制が構築されている施設
目標	臓器提供に備え、院内体制を新たに構築する。 2年を目途にステップ B のレベルに達すること。	申出があったときに、円滑に脳死下臓器提供を行う為の院内体制を完備する。 2年を目途にステップ C のレベルに達すること。	脳死下臓器提供の体制を維持するとともに、より円滑な脳死下臓器提供を行う為の院内体制の維持向上と、常に選択肢提示ができる体制を構築する。 臓器提供の経験が複数回に達した場合、「臓器提供施設連携体制構築事業」の実施主体となることも検討すること。

別表 2

## 【事業内容】

	助成金の対象となる活動	各ステップにおける活動 (◎：必須、○：推奨)		
		ステップ A	ステップ B	ステップ C
1 臓器提供に関する院内体制を構築/継続するための基礎活動				
①	臓器提供に関する委員会・会議の開催	◎	○	○
②	院内マニュアル(脳死下提供・心停止後提供・児童虐待対応等)の作成、見直し・改訂	◎	◎	◎
2 臓器提供に関する院内体制を構築/継続するための研修				
①	臓器移植医療に関する院内研修会の開催	◎	◎	○
②	各種学会と共催するセミナーへの職員の派遣	◎	○	○
3 臓器提供に関するシミュレーションの実施				
①	段階別・パターン別シミュレーションの実施	◎	◎	◎
4 選択肢提示の実施状況に関する報告				
①	GCS3 を認める者の治療経過および不可逆的全脳機能不全に至った場合の家族への選択肢提示の実施状況に関する報告	○	◎	◎

※各ステップにおいて必須項目の実施ができなかった場合、翌年度以降の助成金の交付決定に影響する場合があります。